

## 2021年度（第5回）全国キャラバン研修会

### 「エビデンスに基づく排泄援助の技」

#### 開催報告

日時：2022年2月5日（土）13:00～15:00

参加者：92名（会員48名、非会員44名）

担当者：[浣腸班] 武田利明（前岩手県立大学） 吉田みつ子（日本赤十字看護大学）  
栗田愛（人間環境大学）

[温罨法班] 加藤京里（静岡県立大学） 加藤木真史（神奈川県立保健福祉大学）、  
久賀久美子（北海道科学大学） 酒井礼子（花と森の東京病院）、  
菅原啓太（三重県立看護大学） 田中美智子（宮崎県立看護大学）、  
丸山朱美（北海道せき損センター）

#### 1. 研修会の内容

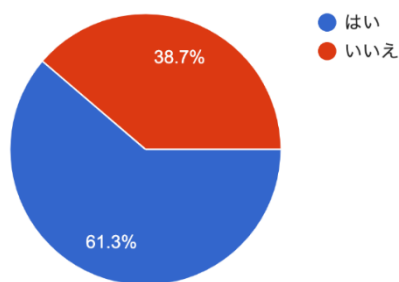
時間	内容
12:45～	・参加者入室開始
13:00～（10分）	・オリエンテーション ・挨拶（深井理事長、浣腸班・温罨法班メンバー） ・技術研究成果検討委員会の紹介
13:15～（60分）	・グリセリン浣腸の有害事象のメカニズム ・グリセリン浣腸の有害事象の動向 ・グリセリン浣腸 Q&A 紹介と説明
14:15～（30分）	・温罨法の安全性と効果 ・温罨法技術のポイント
14:45～（10分）	・質疑応答・意見交換
14:55～（5分）	・記念撮影 ・アンケートのお願い
15:00	・参加者 Zoom 退出

グリセリン浣腸と摘便については、グリセリン浣腸が原因である医療事故の動向、その機序、安全にグリセリン浣腸や摘便を実施するための実施方法について取り上げました。温罨法については、温罨法の効果や安全性、温罨法のデモンストレーション動画を用いて実施のポイントをご説明しました。

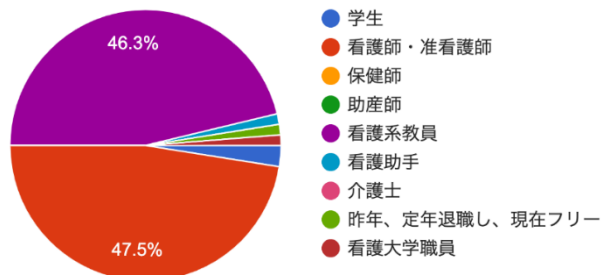
今回は、臨床や在宅の看護職と、教育機関に所属する教員がそれぞれ約半数参加しており、例年と比較して教育機関所属の教員のご参加が多かったです。研修での質疑応答では、参加者からの質問に対して回答をいたしました。また、研修後のアンケートにも質問があったため、後日参加者全員に向けてメール配信で質問へ回答をしました。今回の研修会の内容が周囲の方との共有や教育に活かされ、良いケアが普及していくことを願っています。

## 2. アンケート結果（一部抜粋） [回答 80、回答率 87%]

1) あなたは日本看護技術学会の会員ですか？

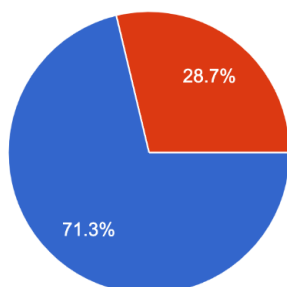


2) ご職業をお選びください

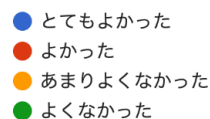
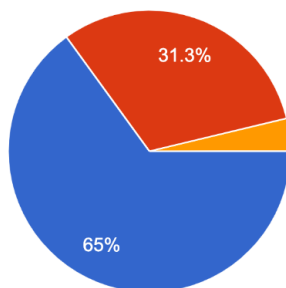


3) 本日の研修会の内容はいかがでしたか

① 浣腸・排便について



② 温罨法について



4) 本日の研修会の感想、今後取り上げてほしい内容などについてご自由にお書きください（抜粋）

- ・WEBでの開催であったので、参加しやすかった。
- ・研究結果に基づいた最新情報と実践動画ととても勉強になりました。今後もこのような機会には、是非学びなおす機会として参加させていただきたいです。
- ・初めて参加させていただきましたが、とても有意義な時間だったため、今後も機会がありましたら参加したいと思いました。排便の方法と温罨法の実際については、動画を視聴することでより理解が深まり、すぐにでも活用していきたいと思いました。
- ・教員をしており、授業を行う際に根拠をわかりやすく伝えられそうです。丸山式の温罨法については、現場の気づきや学びから、エビデンスに繋がられているところが、素晴らしいと思いました。研修はとても準備されていて、スムーズに進行されており、普段自分がする授業もこのようにできたらいいなと思いました。
- ・基礎看護学の教員をしていますが、今後の教育に取り入れさせていただければと思いました。看護師が最新のエビデンスを基に、看護を実施することは非常に重要だと思います。教育機関に勤務する者として、ぜひ本研修会の内容を活用させていただけたらと思いました。
- ・看護教育に活かせるように教科書等に反映していただきたいです。
- ・温罨法の具体的な方法を初めて知りました。お時間のある方に行き、排便コントロールにつなげたいです。とても勉強になりました。
- ・温罨法の丸山式の開発者を実際に拝見できて良かったです。

- ・これまで長年にわたり、どのような研究がされてきたのかなどとてもわかりやすかったです。浣腸は医療事故も起きています。その一方で高齢者にとっても、一般の人々にとって便秘というのは大きな問題です。温罨法をはじめ、グリセリン浣腸の効果や即効性と同等の方法が今後も模索されればと思います。
- ・タオルとビニールを用いた温罨法では、簡便に作成でき、その効果を実感することが可能ではないかと思ひ、次年度の演習に組み入れていきたいと思ひました。
- ・在宅では、家族やサービスの都合上、定期的に浣腸と排便を実施することが頻繁にあります。実施せざるを得ないとしても、しっかりアセスメントをすること、また、有害事象やその原因を知ること、より安全にケアが実施できると感じました。

